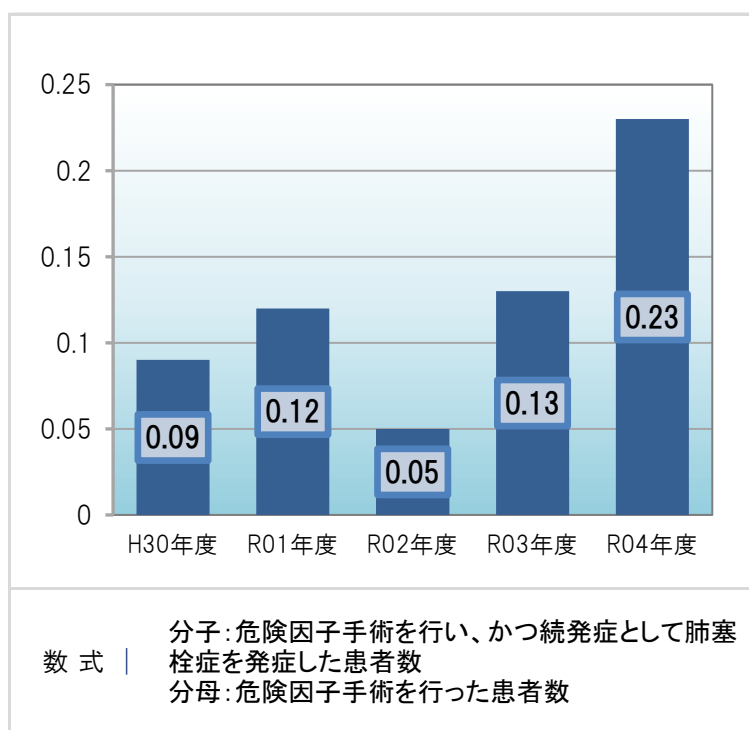


24 手術あり患者の肺塞栓症の発生率

● 項目の解説

「項目23手術あり肺血栓塞栓症予防対策実施率」と同様に、肺塞栓症予防に対する病院全体の取り組みの結果を表現する指標です。なお、肺塞栓症の患者数は、診断やデータの精度によって影響を受けることから、過小評価となっている可能性があります。

● 当院の実績



単 位 | 割合 (%)

期 間 | 年間

備考

肺血栓塞栓症は長期臥床や下肢または骨盤部の手術後に発症することが多い疾患です。当院では、弾性ストッキングの使用などの予防対策を適切に実施しています。

令和4年度国立大学病院平均値 0.25%

● 定 義

当該項目は独立行政法人国立病院機構が平成27年9月に発表した「国立病院機構臨床評価指標Ver. 3計測マニュアル」に基づき作製しています。具体的にはDPCデータを元に算出した、特定の手術を実施した患者に対する「肺血栓塞栓症」の発生割合を算出するものです。

参考URL:独立行政法人国立病院機構「国立病院機構臨床評価指標Ver.3.1計測マニュアル」
https://nho.hosp.go.jp/cnt1-1_0000840927.html